

3 - 9 関東地域における三成分ひずみ計及び IBOS による最近の観測結果(1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

Results of Continuous Observation by Three-Component Strainmeters and IBOSes in Kanto District (from May, 1999 to April, 2000)

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報¹⁾に引き続き、最近の観測結果について報告する。

第 1 図及び第 2 図は、八郷 1 号機及び 2 号機による、1999 年 5 月からの最近 1 年間のひずみ変化を 6 か月間毎に表したものである。第 3 図は甲府による同様のものである。前回と同様に今回もひずみ変化の観測結果を直接表示している。E1D, E2D, E3D 及び DIL, SMAX の意味については以前の連絡会報²⁾を参照してほしい。

八郷 1, 2 号機においては、今までと同様に、ほぼ一様な収縮が継続している。なお、2 号機の結果が示す 8 月前半の異常は、機器の不具合(第 2 隔室系統)によるものである。このひずみ計の原理上、ある隔室の面積変化はひずみ 3 成分に影響する。たまたま E2D の異常が大きい、E1D と E3D にも小さいながら異常は現れている。第 2 隔室がおかしいから、ひずみの第 2 成分である E2D だけがおかしくなると解釈しないでほしい。

第 2 図には、2 号機孔井のごく近傍に設置されている傾斜計のデータが併記されている。傾斜の変動と雨量との関係は明瞭ではない。4 月 10 日の大きな跳びは、茨城県南部の地震(M:4.6, 深さ 55km)によるものであるが、当然ながら本当の傾斜ステップではない。

甲府では、以前は全体として収縮が継続していたが、最近は必ずしもそうとはいえないようである。6, 7 月の降雨期には収縮するが、後半はむしろ膨張気味である。

第 4 図、第 5 図及び第 6 図は、玄倉、平塚及び真鶴の IBOS による最近 1 年間の観測結果である。降雨の影響が玄倉において著しいのは、いつものことであり、従来のパターンと相似である。平塚についても、従来と大きな違いは見つからない。

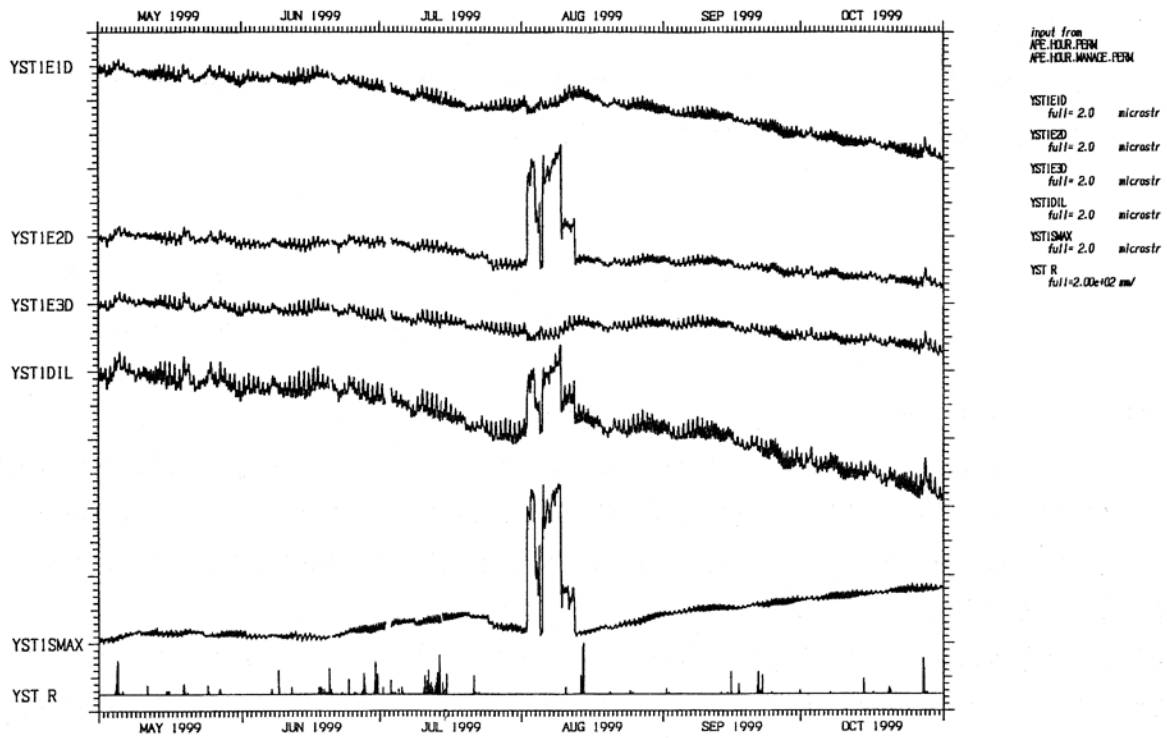
真鶴ではひずみ計が、ほぼ一様かつ他に比して大きな圧縮を受けてきていることは今までどおりである。収縮の速さが減少してきたので、今回は図のフルスケールの値を従来のものの半分にした。以前と比較するときは注意してほしい。

(坂田正治)

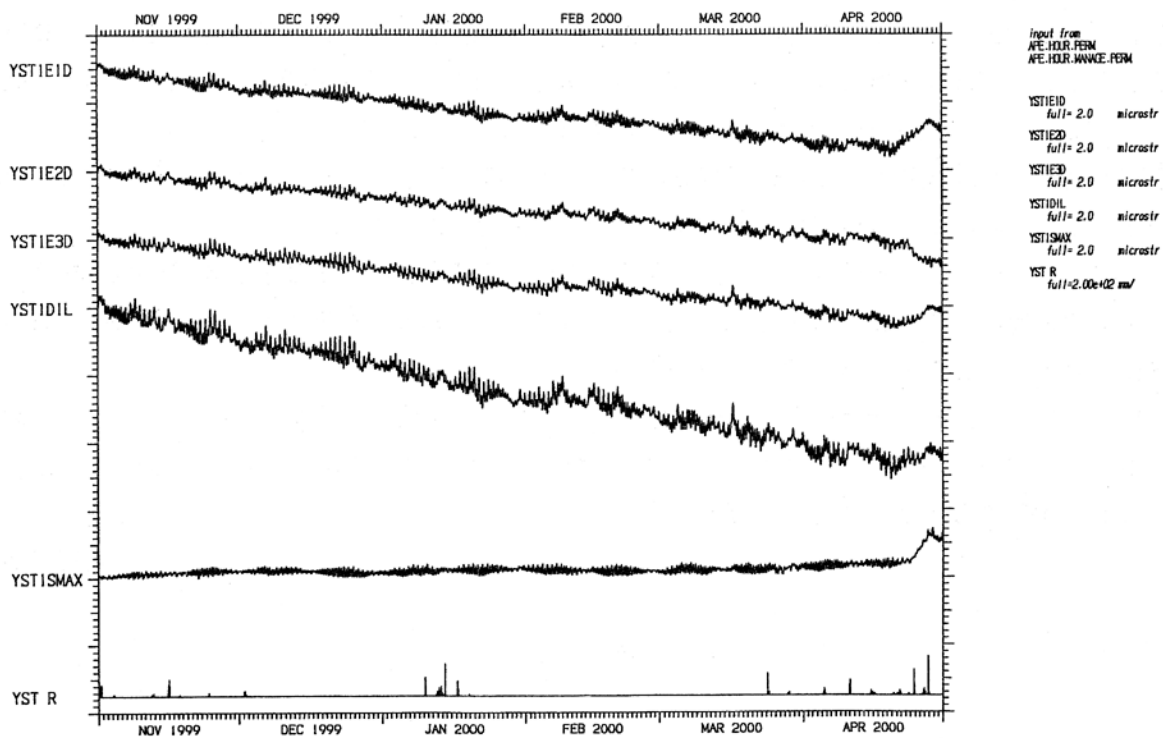
参 考 文 献

- 1) 防災科学技術研究所：関東地域における三成分ひずみ計及び IBOS による最近の観測結果(1998 年 5 月 ~ 1999 年 4 月まで), 連絡会報, 62(1999), 158-164 .
- 2) 防災科学技術研究所：関東地域における三成分ひずみ計及び IBOS による最近の観測結果(1994 年 3 月まで), 連絡会報, 52(1994), 199-206 .

YST1 19990501 00 - 19991101 00 HOURLY DATA



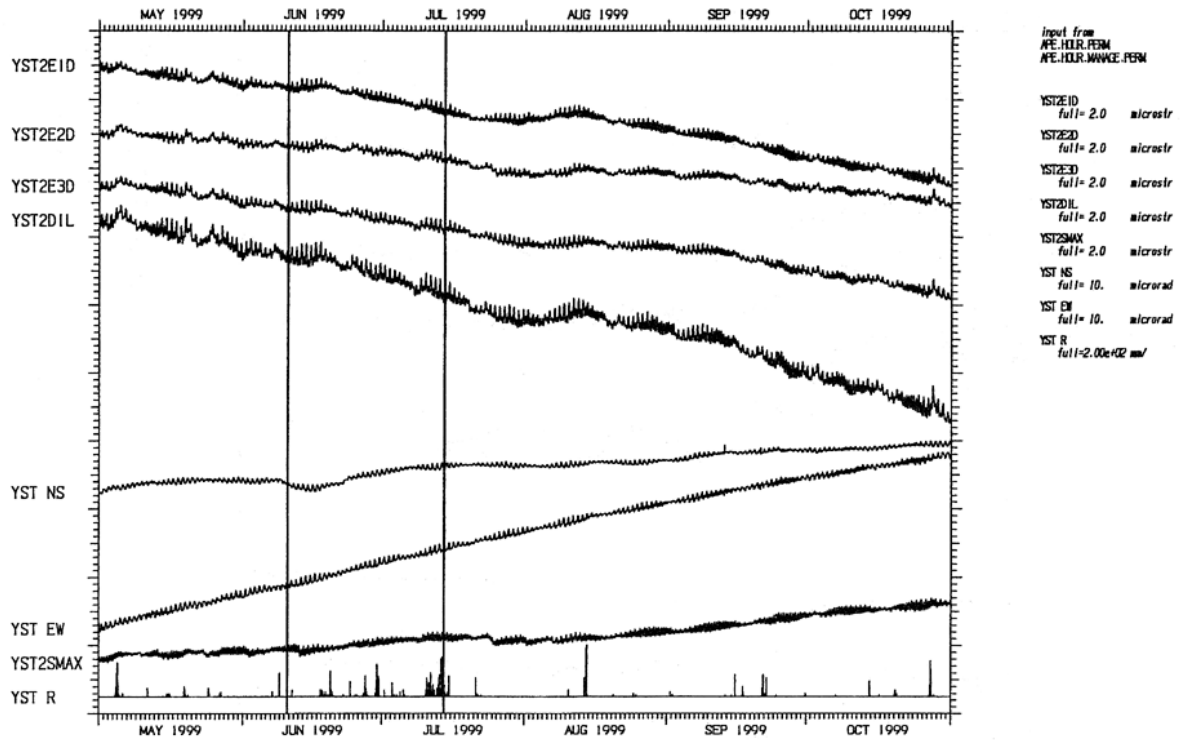
YST1 19991101 00 - 20000501 00 HOURLY DATA



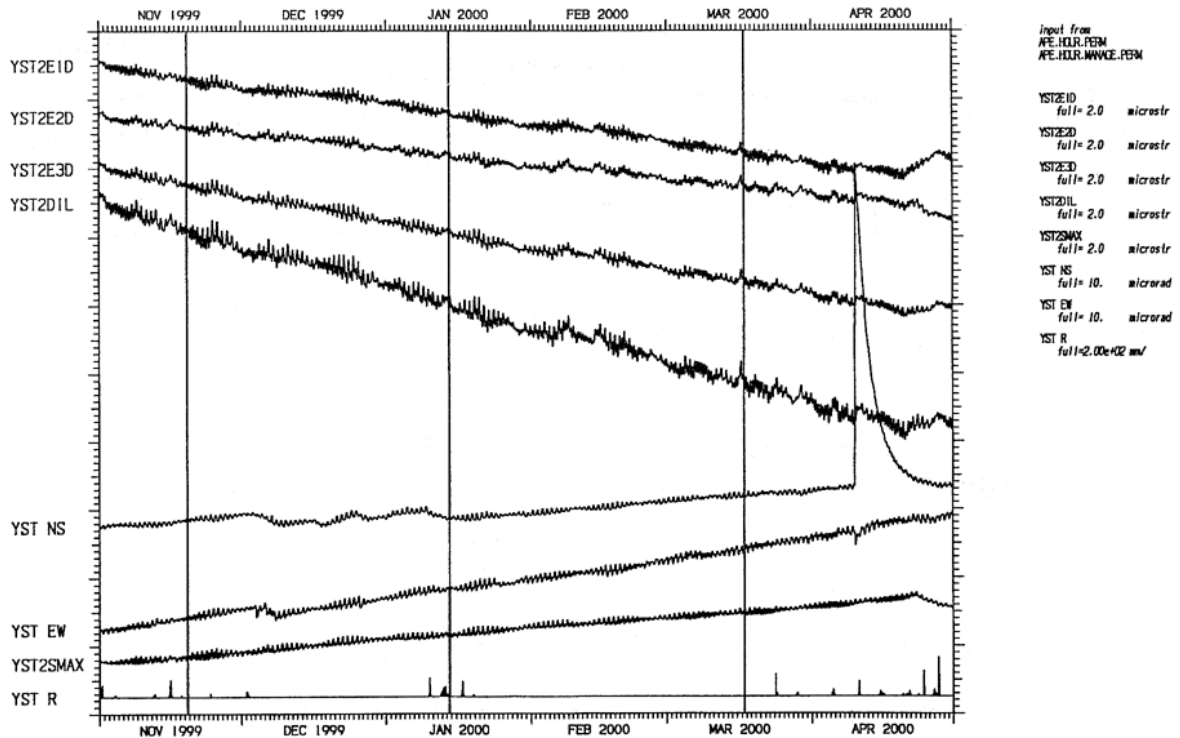
第 1 図 八郷の三成分ひずみ計 1 号機による連続観測結果 (1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

Fig.1 Record of continuous observation by No1 three-component strainmeter at Yasato, E1D, E2D, E3D: elongations of linear elements along N00E, N60E, N120E, DIL: dilatation, SMAX: maximum shear, R: precipitation.

YST2 19990501 00 - 19991101 00 HOURLY DATA



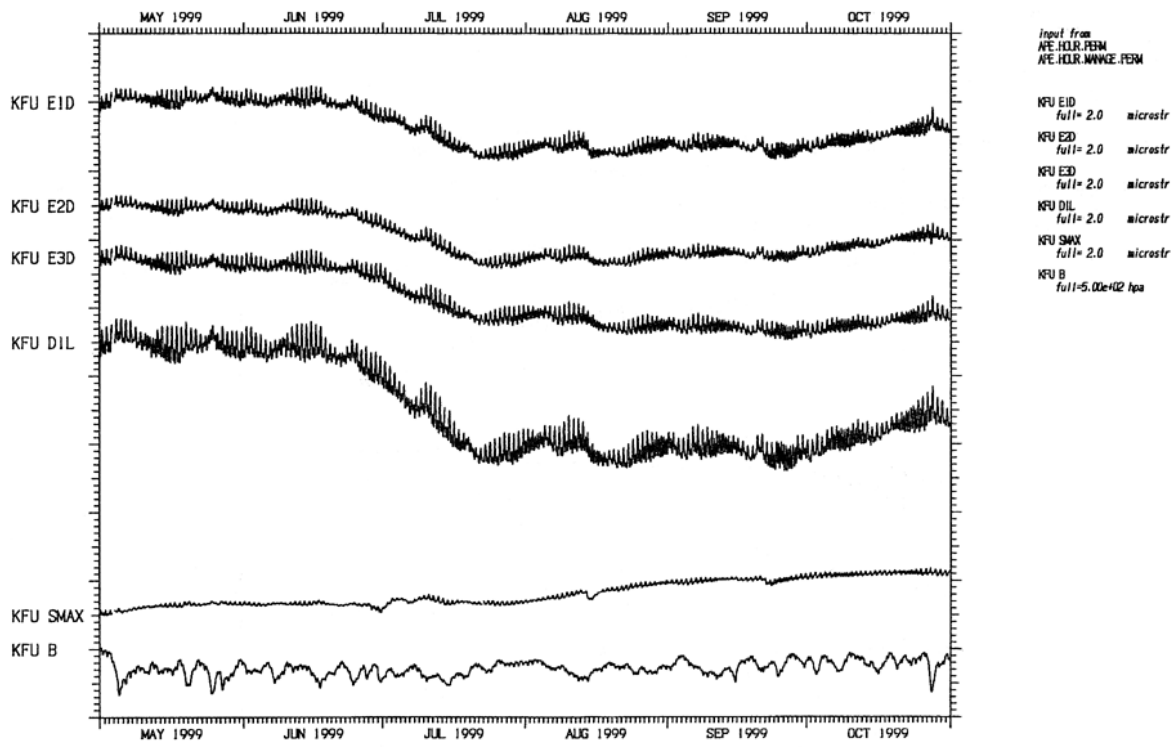
YST2 19991101 00 - 20000501 00 HOURLY DATA



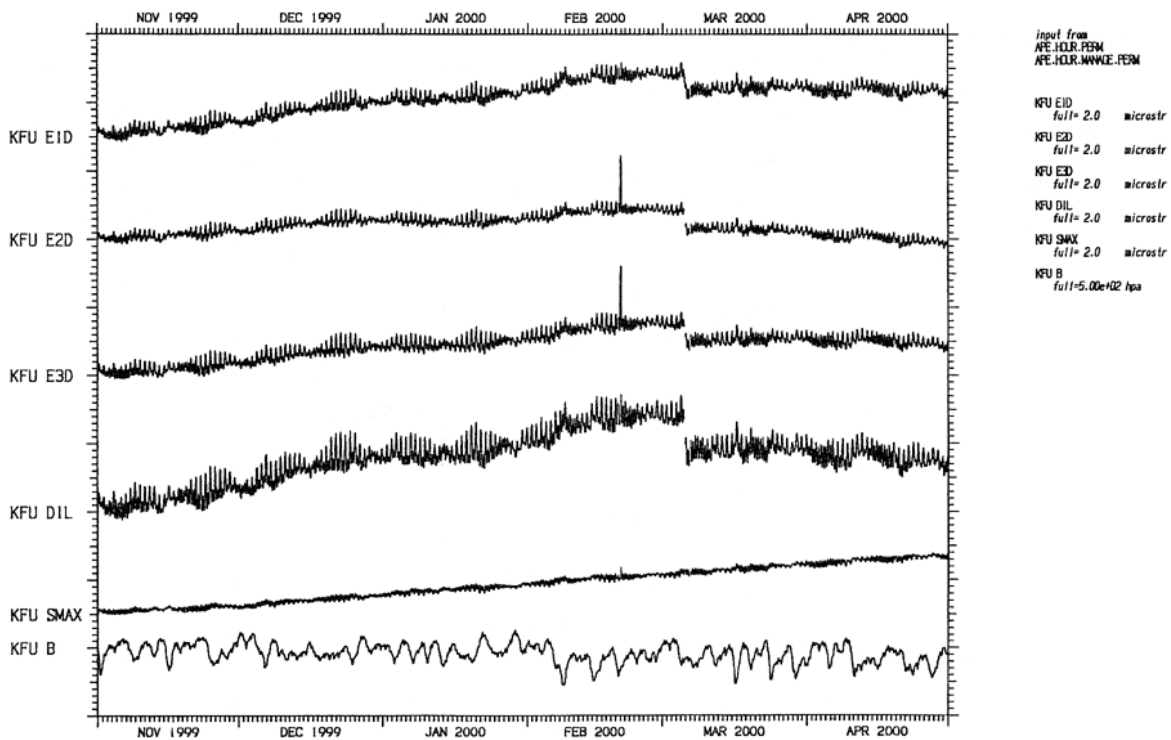
第 2 図 八郷の三成分ひずみ計 2 号機及び傾斜計による連続観測結果 (1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

Fig.2 Record of continuous observation by No2 three-component strainmeter and a tiltmeter at Yasato, NS,EW: tilt components.

KFU 19990501 00 - 19991101 00 HOURLY DATA



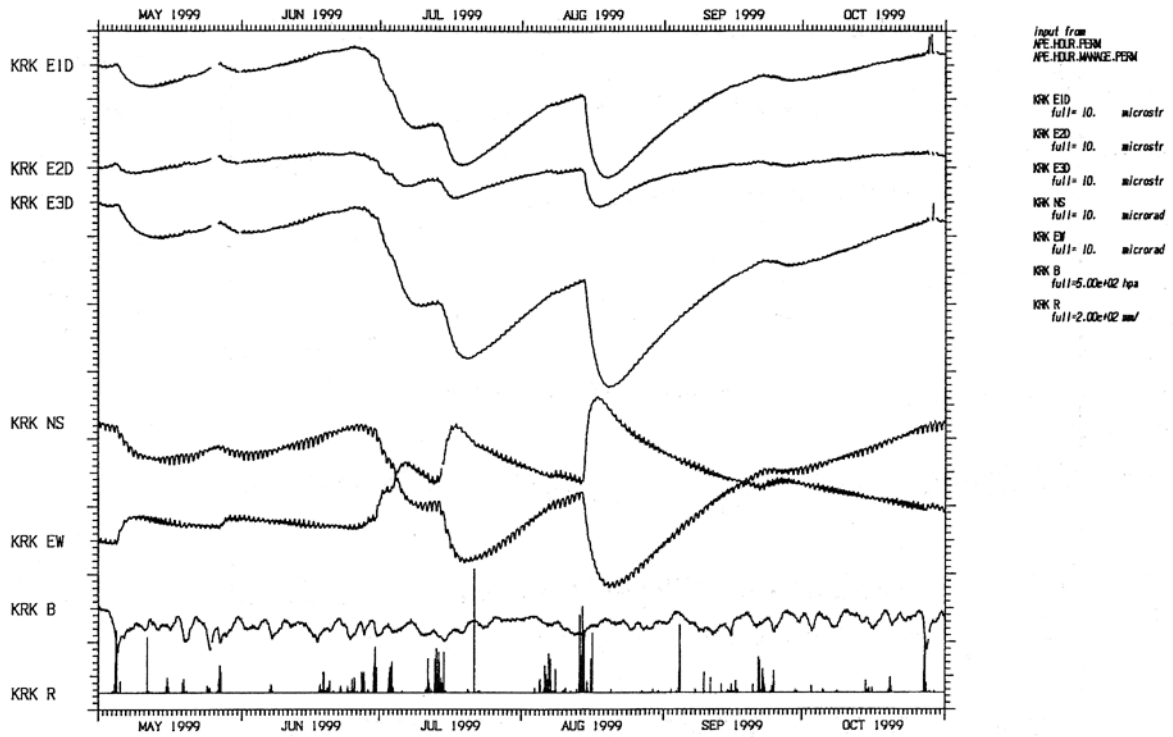
KFU 19991101 00 - 20000501 00 HOURLY DATA



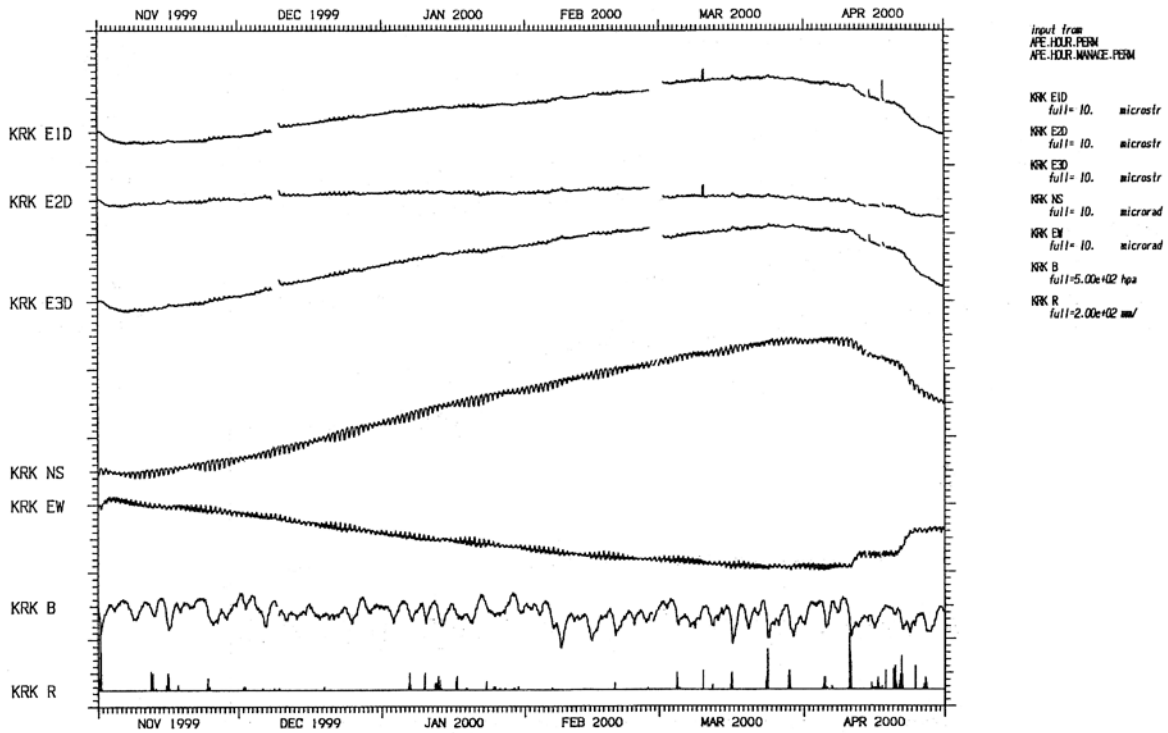
第3図 甲府の三成分ひずみ計による連続観測結果 (1999年5月~2000年4月)

Fig.3 Record of continuous observation by the three-component strainmeter at Kofu, B: atmospheric pressure.

KRK 19990501 00 - 19991101 00 HOURLY DATA

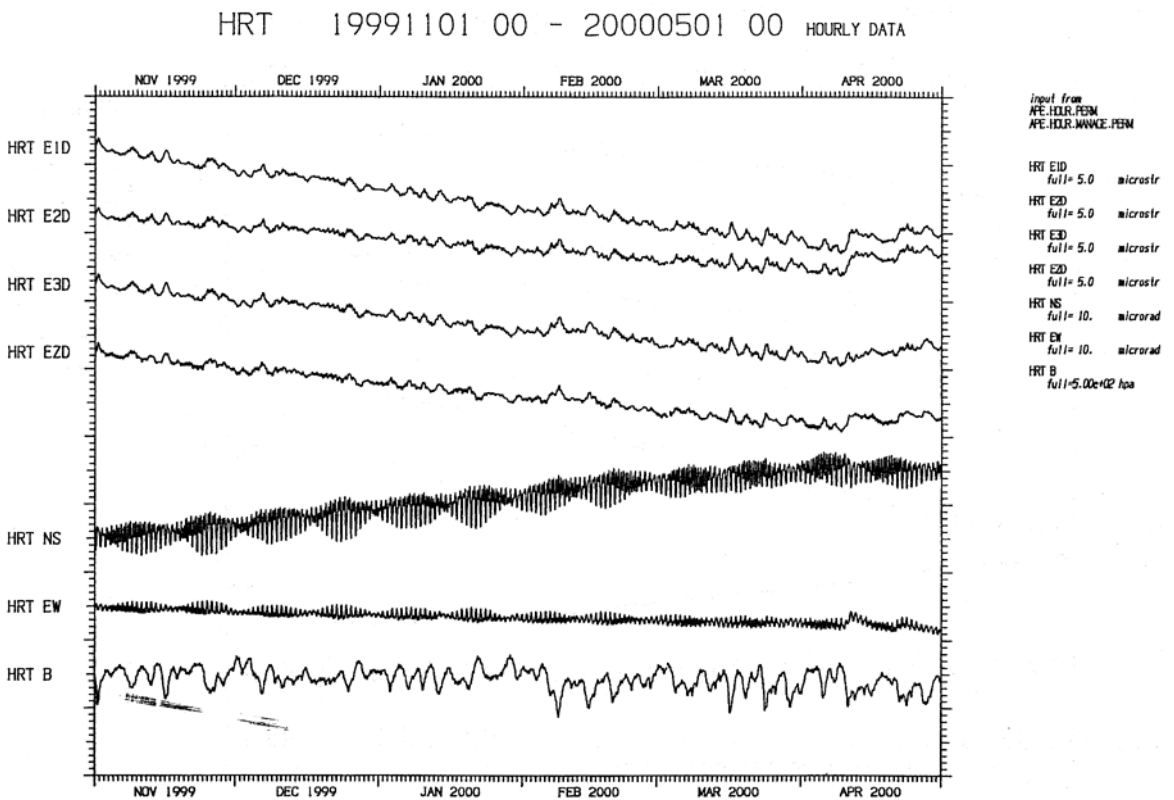
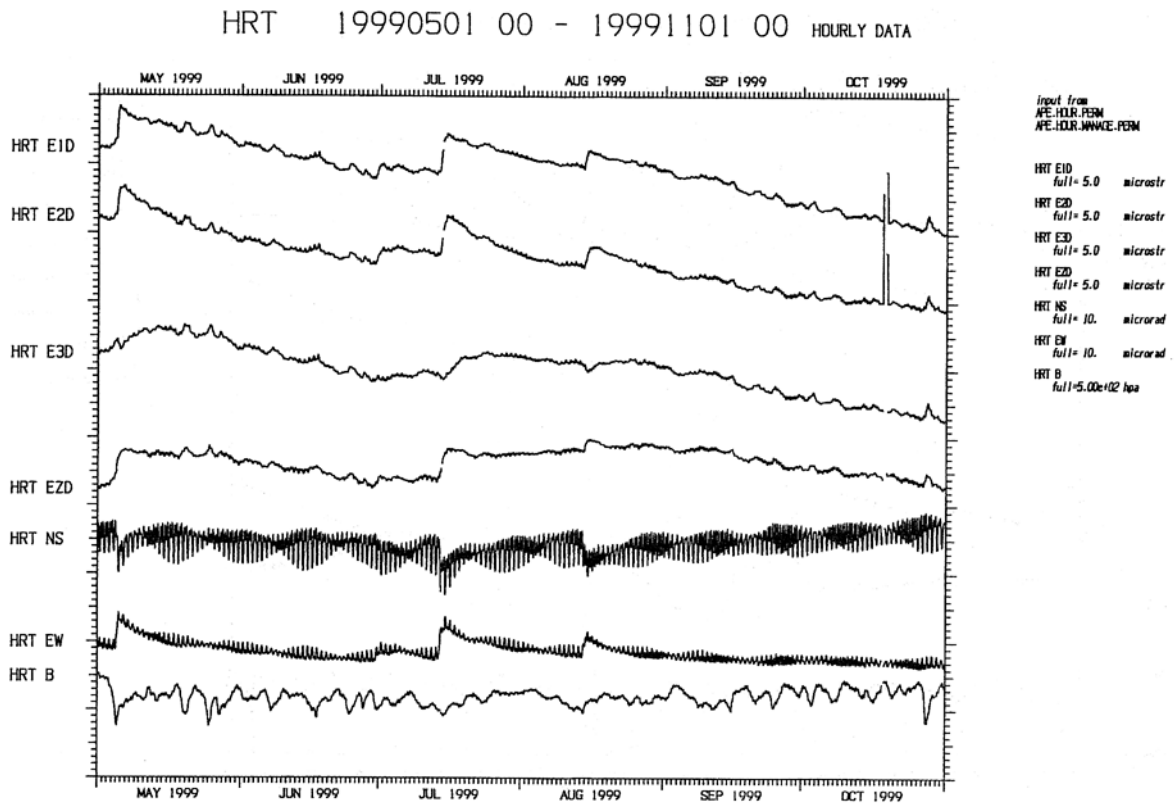


KRK 19991101 00 - 20000501 00 HOURLY DATA



第 4 図 玄倉の IBOS による連続観測結果 (1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

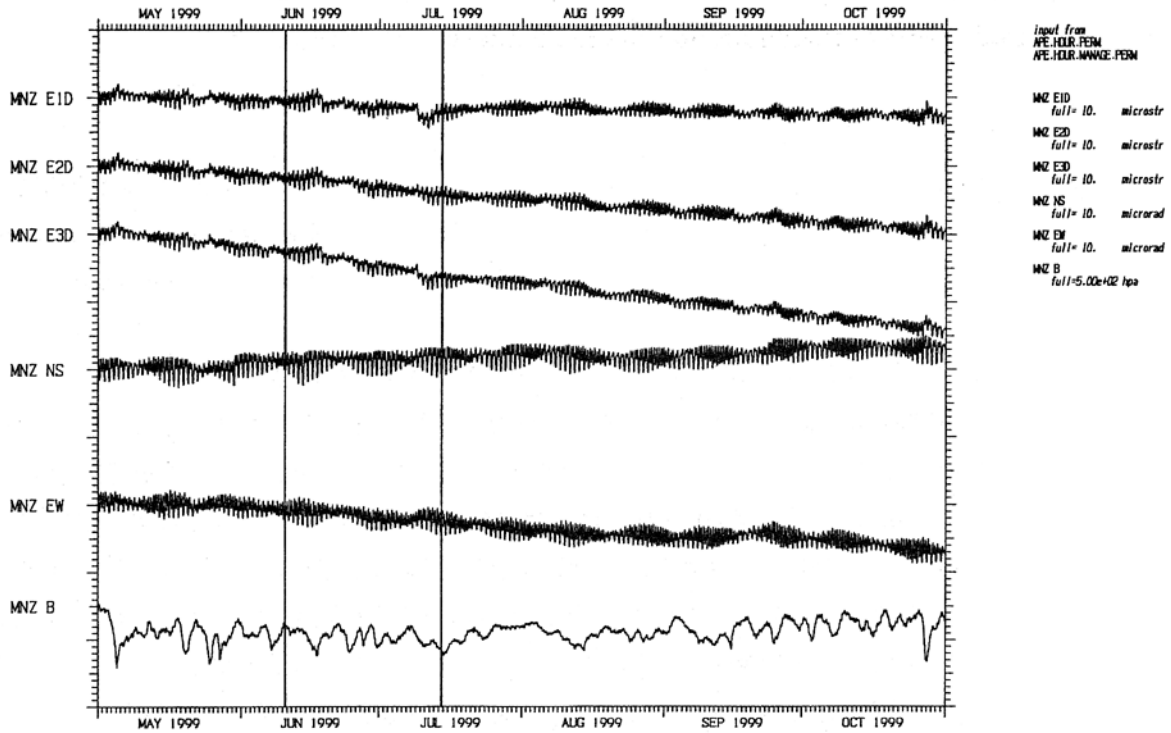
Fig.4 Record of continuous observation by IBOS at Kurokura.



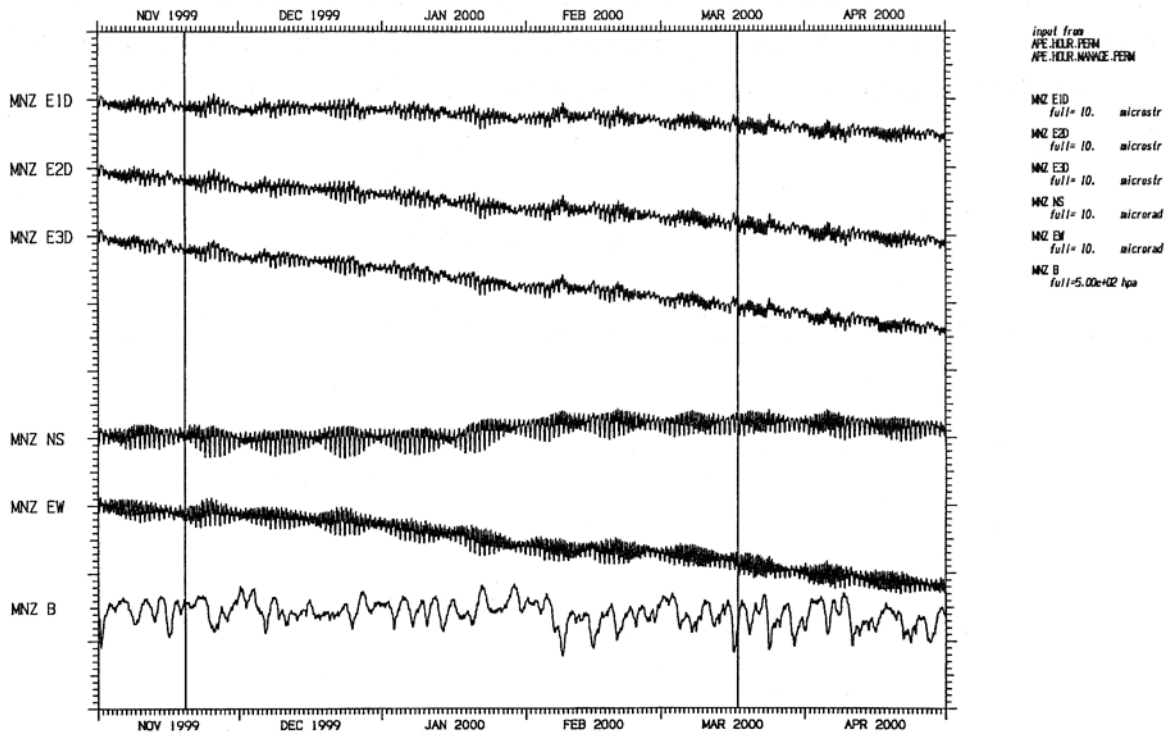
第 5 図 平塚の IBOS による連続観測結果 (1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

Fig.5 Record of continuous observation by IBOS at Hiratsuka, E2D: vertical strain detected by axial strainmeter.

MNZ 19990501 00 - 19991101 00 HOURLY DATA



MNZ 19991101 00 - 20000501 00 HOURLY DATA



第 6 図 真鶴の IBOS による連続観測結果 (1999 年 5 月 ~ 2000 年 4 月)

Fig.6 Record of continuous observation by IBOS at Manazuru.